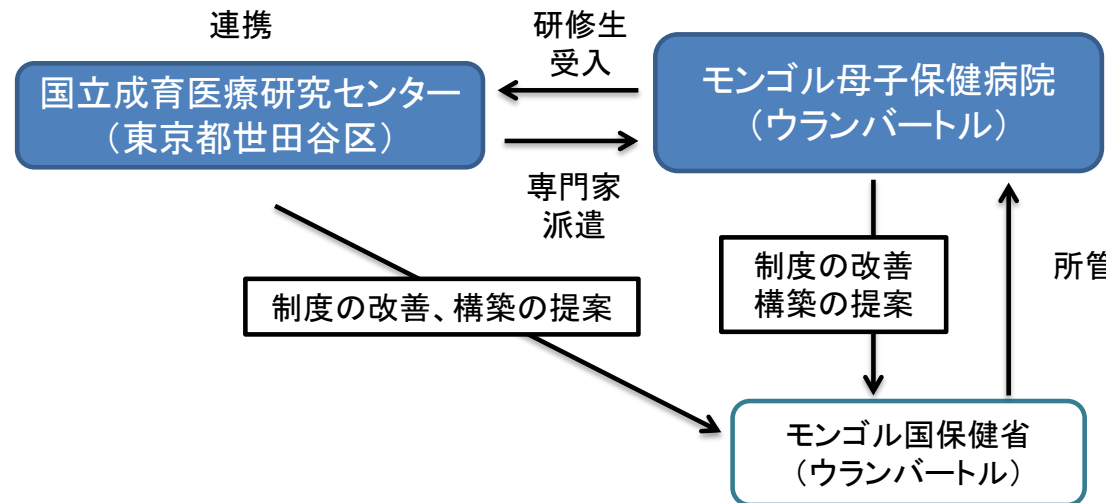


【別添4】事業概要のまとめ（日本語版）

モンゴル国の小児外科/麻酔関連領域における人材育成

- モンゴル母子保健病院は、当該国の母子医療の三次医療機関で、小児外科領域の国の中心的機関である。近年、新生児症例、腫瘍症例、胸腹腔鏡手術(Minimally Invasive Surgery : MIS)など、より高度な周術期管理、手術手技が必要な症例が急増しているが、MISの手術手技の教育システムがないため手術手技や麻酔周術期管理も発展途上である。
- 日本の小児医療の中心である国立成育医療研究センターからの小児外科医(日本内視鏡外科技術認定医)/小児麻酔科医の派遣と、モンゴルからの日本への研修受け入れによって、モンゴルでのより高度な周術期管理・手術手技を確立する。
- 小児MIS手術、新生児外科症例、腫瘍症例の麻酔/手術手技の確立、教育システム導入、術後管理の確立、それによる対象患者のQOLの改善が得られる。
- 事業3年目には症例に応じたMIS、新生児外科症例、腫瘍症例の麻酔管理を適切に選択し実施、手術手技も安全に行える。術後管理においてもPediatric Advanced Life support に準じた術後ケアを安全に行えるようになる。



<研修スケジュール予定>

4月 事業説明

5月 日本での研修(モンゴル医師5名)

・MIS技術指導、日本の小児外科の現場視察、学会発表・研修

7月 専門家派遣

・手術指導・麻酔術後管理指導・教育システム導入

9月 日本での研修(モンゴル医師6名)

・日本のMIS、新生児外科症例、腫瘍症例の麻酔管理、手術指導、術後管理の研修

11月 専門家派遣

・手術指導・麻酔術後管理指導